



2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年8月1日

上場会社名 株式会社 デサント 上場取引所 東
 コード番号 8114 URL <http://www.descente.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小関 秀一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 土橋 晃 (TEL) 06-6774-0365
 四半期報告書提出予定日 2019年8月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	29,479	△4.2	451	△59.6	577	△51.7	354	△63.6
2019年3月期第1四半期	30,776	2.0	1,116	13.6	1,196	11.9	975	27.6

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 △306百万円(—%) 2019年3月期第1四半期 △1,306百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	4.71	—
2019年3月期第1四半期	12.94	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	113,817	76,178	66.9
2019年3月期	115,756	78,446	67.8

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 76,178百万円 2019年3月期 78,446百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	26.00	26.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	0.00	—	22.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	64,400	△3.5	1,500	△47.8	1,600	△50.3	1,100	△52.0	14.59
通期	144,000	1.1	8,000	0.8	8,200	△3.1	5,300	34.4	70.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料8ページ「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期1Q	76,924,176株	2019年3月期	76,924,176株
2020年3月期1Q	1,516,157株	2019年3月期	1,516,109株
2020年3月期1Q	75,408,031株	2019年3月期1Q	75,372,796株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	10
海外売上高	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の売上高は29,479百万円（前年同四半期比4.2%減）、営業利益は451百万円（前年同四半期比59.6%減）、経常利益は577百万円（前年同四半期比51.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は354百万円（前年同四半期比63.6%減）となりました。

報告セグメントの業績は次のとおりであります。

（セグメント別売上高）

セグメントの名称	売 上 高 (百万円) (前年同四半期比)	セグメント利益又は損失 (百万円) (前年同四半期比)
日 本	10,782 (92.7%)	△1,486 (前年同四半期△792百万円)
ア ジ ア	18,138 (97.2%)	2,186 (102.8%)
欧 米	558 (117.3%)	△227 (前年同四半期△219百万円)
調 整 額	—	△21 (前年同四半期1百万円)
合 計	29,479 (95.8%)	451 (40.4%)

（日本）

アスレチックカテゴリーにおいては「デサント」は堅調に推移しましたが、「ルコックスポルティフ」、「アンブロ」は苦戦しました。ゴルフカテゴリーにおいては「デサント」が好調に推移しましたが、「マンシングウェア」は苦戦しました。結果、日本全体として減収による売上総利益の減少により、営業損失が前年より拡大しました。

（アジア）

韓国においては「アンブロ」が好調に推移しましたが「デサント」は苦戦しました。香港、シンガポールにおいては「ルコックスポルティフ」が好調に推移しました。アジア全体として売上高は前年を下回りましたが、利益は主に韓国での売価率の向上により前年を上回りました。

（欧米）

「イノヴェイト」の売上高が好調に推移したことにより欧米全体の売上高は前年を上回りましたが、2018年3月に設立した「DESCENTE ATHLETIC AMERICAS, INC.」の販管費の増加が、増収による売上総利益の増加を上回ったことが影響し、営業損失が前年より若干拡大しました。

品目別売上高の状況は次のとおりであります。

（品目別売上高）

区 分	金 額	構 成 比	前年同四半期比
アスレチックウェア及びその関連商品	百万円 21,247	% 72.1	% 95.4
ゴルフウェア及びその関連商品	6,516	22.1	92.5
アウトドアウェア及びその関連商品	1,715	5.8	117.1
合 計	29,479	100.0	95.8

（注）上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(アスレチックウェア及びその関連商品)

アスレチックカテゴリーにおいては、「デサント」が国内で、また「アンブロ」「ルコックスポルティフ」が海外で増収となったものの、国内では「ルコックスポルティフ」「アンブロ」が、海外では「デサント」「アリーナ」が減収となり、結果、全体として売上高は前年同四半期より減少しました。

「デサント」においては、オフィシャルウェアをサプライしているフェンシング日本代表選手が、6月に開催された「アジアフェンシング選手権大会 2019」にて男子・女子ともにフルレ団体で優勝を果たすなど、好成績を収めました。当グループは今後も各種競技団体および選手へのウェア、シューズ等のサプライを通じ、商品開発力の強化およびグローバルでのブランド認知拡大、ブランド価値の向上を推進します。

「ルコックスポルティフ」では同ブランドをアジア以外で展開するルコックスポルティフ・インターナショナル社と共同でフランスラグビー連盟とオフィシャルサプライヤー契約を締結しました。

「アリーナ」においては4月に開催された「第95回日本選手権水泳競技大会」にて瀬戸大也選手(所属:ANA/JSS毛呂山)が200mバタフライ、200m・400m個人メドレーで、入江陵介選手(所属:イトマン東進)が50m・100m・200m背泳ぎで優勝を果たす等、契約選手が活躍しブランドアピールに貢献しました。

「アンブロ」においては高い断熱効果を発揮する塗料「GAINA(ガイナ)」を国内で初めてシューズに搭載したサッカースパイクを開発しました。また韓国においては1月に新発売したダッドスニーカー「BUCKY」の販売が好調に推移するなどシューズ事業の拡大を進めています。

(ゴルフウェア及びその関連商品)

ゴルフカテゴリーにおいては、国内外で「デサント」が引き続き好調で増収となったものの、国内外で「ルコックスポルティフ」「マンシングウェア」が苦戦し、結果、全体として売上高は前年同四半期より減少しました。

「ルコックスポルティフ」の契約選手である鈴木愛プロが6月に開催された「宮里藍 サントリーレディスオープンゴルフトーナメント」に続き、翌週開催された「ニチレイレディス」と二週連続優勝を果たし、ブランド価値向上に貢献しました。

「マンシングウェア」においては4月に東京・銀座の旗艦店がオープン1周年を迎え、今後もゴルフウェアはもちろん、日常シーンで着用いただけるウェアを展開するとともに、ブランドの世界観を発信していきます。

その他のトピックスとして、「デサント」にて近年の深刻化する夏の猛暑対策としてファンウェア市場に新規参入しました。当社の研究開発拠点”DISC OSAKA(ディスクオオサカ)”にて商品開発を行い2020年春夏シーズンでは、更に販売網を拡大し幅広いお客様に着用いただくことを目指します。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は113,817百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,938百万円減少致しました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ7,087百万円減少し、70,964百万円となりました。これは主に現金及び預金の減少5,378百万円、受取手形及び売掛金の減少3,916百万円、商品及び製品の増加2,482百万円などによるものです。

固定資産は前連結会計年度末に比べ5,148百万円増加し、42,853百万円となりました。これは主に有形固定資産その他に含まれる使用権資産の増加5,595百万円などによるものです。

負債合計は前連結会計年度末に比べ328百万円増加し、37,639百万円となりました。これは主に固定負債その他に含まれるリース債務の増加3,681百万円、支払手形及び買掛金の減少2,872百万円などによるものです。

純資産は前連結会計年度末に比べ2,267百万円減少し、76,178百万円となりました。これは主に利益剰余金の減少1,605百万円、為替換算調整勘定の減少569百万円などによるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.9%減の66.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想につきましては、2019年5月13日の決算短信で公表しました業績予想から変更はありません。新たな中期経営計画につきましては、前連結会計年度にて対象期間が終了した中期3ヶ年計画「Compass 2018」の結果の振り返りや、変化の激しい昨今の市場環境を勘案し、現在発表内容を策定中です。公開が可能となった段階で、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	28,136	22,757
受取手形及び売掛金	21,190	17,273
商品及び製品	23,860	26,343
仕掛品	161	157
原材料及び貯蔵品	799	758
その他	4,762	4,527
貸倒引当金	△859	△855
流動資産合計	78,051	70,964
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,356	12,150
その他	12,554	18,009
有形固定資産合計	24,910	30,160
無形固定資産	2,701	2,620
投資その他の資産		
その他	10,182	10,163
貸倒引当金	△89	△91
投資その他の資産合計	10,093	10,072
固定資産合計	37,705	42,853
資産合計	115,756	113,817
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,448	15,576
短期借入金	405	273
1年内返済予定の長期借入金	254	718
未払法人税等	1,183	951
賞与引当金	898	421
返品調整引当金	883	778
債務保証損失引当金	121	121
その他	7,333	7,690
流動負債合計	29,527	26,530
固定負債		
長期借入金	4,133	3,766
退職給付に係る負債	952	1,031
その他	2,697	6,309
固定負債合計	7,783	11,108
負債合計	37,310	37,639

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,846	3,846
資本剰余金	25,281	25,281
利益剰余金	47,632	46,026
自己株式	△643	△644
株主資本合計	76,115	74,509
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	739	606
繰延ヘッジ損益	△4	27
為替換算調整勘定	1,607	1,037
退職給付に係る調整累計額	△11	△2
その他の包括利益累計額合計	2,330	1,668
純資産合計	78,446	76,178
負債純資産合計	115,756	113,817

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	30,776	29,479
売上原価	13,145	12,209
売上総利益	17,630	17,269
返品調整引当金戻入額	—	104
返品調整引当金繰入額	23	—
差引売上総利益	17,607	17,374
販売費及び一般管理費	16,490	16,923
営業利益	1,116	451
営業外収益		
受取利息	77	92
受取配当金	25	25
持分法による投資利益	22	88
その他	54	77
営業外収益合計	180	283
営業外費用		
支払利息	32	71
固定資産除却損	44	17
為替差損	21	66
その他	1	2
営業外費用合計	100	157
経常利益	1,196	577
税金等調整前四半期純利益	1,196	577
法人税、住民税及び事業税	604	319
法人税等調整額	△383	△96
法人税等合計	220	222
四半期純利益	975	354
親会社株主に帰属する四半期純利益	975	354

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	975	354
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	97	△132
繰延ヘッジ損益	9	32
為替換算調整勘定	△2,371	△599
退職給付に係る調整額	33	8
持分法適用会社に対する持分相当額	△51	29
その他の包括利益合計	△2,282	△661
四半期包括利益	△1,306	△306
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,306	△306

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

一部の連結子会社について、税金費用は、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、当該連結子会社の法人税等は、法人税、住民税及び事業税に含めて表示しております。

(会計方針の変更)

国際財務報告基準を適用している子会社は、当第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過的な取扱いに従っており、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の有形固定資産の「その他」が5,595百万円増加、流動負債の「その他」が1,779百万円及び固定負債の「その他」が3,681百万円増加しております。当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	アジア	欧米	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,634	18,665	476	30,776	—	30,776
セグメント間の内部売上高 又は振替高	210	156	18	384	△384	—
計	11,844	18,821	494	31,160	△384	30,776
セグメント利益又は損失	△792	2,126	△219	1,115	1	1,116

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額1百万円には、セグメント間取引消去8百万円、棚卸資産の未実現利益の調整額△6百万円を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	アジア	欧米	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,782	18,138	558	29,479	—	29,479
セグメント間の内部売上高 又は振替高	204	178	24	407	△407	—
計	10,986	18,316	583	29,887	△407	29,479
セグメント利益又は損失	△1,486	2,186	△227	472	△21	451

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△21百万円には、セグメント間取引消去7百万円、棚卸資産の未実現利益の調整額△28百万円を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 補足情報

海外売上高

前第1四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）

（単位：百万円、％）

	アジア	北米	欧州その他の地域	計
I 海外売上高	18,959	173	367	19,499
II 連結売上高				30,776
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合	61.6	0.6	1.2	63.4

（注）売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

当第1四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）

（単位：百万円、％）

	アジア	北米	欧州その他の地域	計
I 海外売上高	18,528	227	369	19,124
II 連結売上高				29,479
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合	62.9	0.8	1.3	64.9

（注）売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。